



ソロー Thoreau



「今月の森人」
佐藤健一さん・耕輔さん

ソローとは？

『通販生活』でおなじみのカタログハウスが展開する木質ペレット普及のための事業部です。

事業部名「ソロー」はアメリカの詩人、博物学者、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー（1817～1862年）の名前に由来します。ソローは1845年にウォールデン湖周辺の森林破壊を阻止したいと湖の北岸に小舎を建て、そこで代表作『森の生活』（岩波文庫上下巻・飯田実訳）を書き上げました。

その中でソローは、人は生きていくために衣食、住の他に燃料も必要であると語り（上巻26頁）、さらにおどろくべき事実を指摘しています。

たいていの町の森には、多くの家庭で燃やすのに十分な、あらゆる種類の薪や枯れ木がころがっているのに、いまのところはひとをあたためるには少しも役立っておらず、かえって若木の成長をさまたげていると考えるひともいる。（下巻141頁）



『森の生活』の発行は1854年ですから、今から166年前。その頃すでに石油温水暖房の普及によって森林の手入れが十分でなくなってきた事情をうかがわせる一節です。

編集後記

● 今年も台風シーズンを迎えますが、被災地の伐木、丸太の搬出を受託することもあり、改めて昨秋の台風15号が直撃した千葉県の山林を訪ねてみました。弓なりの状態で重なる木々や幹の途中から折れた木……この風景を前に呆然と立ち尽くし、どうやって安全に処理し、運び出そうか。「安全はお金で買え」。こういう時のために高性能機械があるのでしょう。作業速報は随時、Facebookで更新しています。（千葉）

● ペレットストーブはお手入れが簡単なのも魅力ですが、3～4年に一度、プロによるメンテナンスをお勧めしています。毎日長時間使っていたり、湿気が強い場所だったり、中には毎月のお手入れをすっかり忘れてしまったりしているケースもあります。所要時間は2時間程度で2万4000円（税抜）です。永く暖かさや炎の癒しを楽しむためにも、有料メンテナンスをご利用ください。お申込みはフリーダイヤルへどうぞ。（北澤）

● 今回の「日々是山日和」では林業に必要な資格を紹介しました。安全に作業するために身につけなければならない知識を学ぶ資格です。重機をすぐに乗りこなす方もいますが、だからと言って事故を起こさないとは限りません。思いもよぬ事故を起こさないためにも知識は必要です。上手くなっても驕ることなく安全な作業に努めます。（宮崎）

ソローストーブ展示販売店のご案内



ソロー八郷体感ルーム

茨城県石岡市小見 1048-1
電話 0299-57-1181

駐車場あり

【営業時間】午前10時～午後5時
【定休日】水曜日、日曜日、祝日、年末年始
※シーズンオフ（4～8月）は土曜日、日曜日、祝日休み
【交通】恋瀬小から約0.8km、羽鳥駅から約12km、
フラワーパークから約9.8km、石岡駅から約16.7km

（八郷体感ルームではソローペレット1袋・着火剤1箱から販売しています。他社製ストーブにも使えます。）



日本の森の明日を
考えるための基礎知識

千葉編 連載第5回

未曾有の台風被害を越え、 踏み出す第一歩。



千葉県森林組合南部支所の三橋さん(右)と齋藤さん。手入れを続けてきた森林の被害に胸を痛めながらも、山主の意向に沿った森林再生を目指す。



上：ロープと滑車を組み合わせ、より小さな力で巨大な木を動かすリギングという技術を使って倒木を搬出する。右：利用できる材は、規定の長さに伐り揃えられ、市場に出される。

昨年9月に千葉県を直撃した台風15号は、県内に観測史上最大級の暴風をもたらし、森林にも未曾有の被害を引き起こしました。被害規模や復旧再生事業の現状などについて、千葉県の林業関係者を訪ねて話を聞きました。

笠井峰子(ライター)／千葉慶一(小社ソロー事業部)

始めに、千葉県森林課で副課長兼森林政策室長を務める堀口正昭さんに、被害規模の調査結果について伺いました。「昨年9月に国と現地調査を行い、直接、被害地の状況を確認するとともに、広域的な被害を把握するため、衛星写真を使った調査を実施し、台風15号による被害面積は89777ヘクタールと推計されました」。これは、東京ドーム1920個分という途方もない面積。地上で1カ所ずつ現地を巡り調査することは、時間的にも人員的にも現実的でなく、被害前後の衛星写真を比較し、植生の状態を示す指標の変化を分析して判定する方法が採用されました。

被害規模が甚大なため、森林再生事業は緒についたばかりだといいます。

国の事業を活用した県補助事業を最大限に活用し、山主に負担をかけない仕組みで推進

「電線や道路など重要インフラ施設に近い緊急性の高い森林から優先して、国の事業を活用した県補助事業による市町村主体の森林整備を進めている状況です。いずれにしても、被害規模は数年で再生可能なレベルではありません。県では、風に強い森林への再生を適切に進めるための技術資料を作成して市町村に示したところであり、森林再生までの中長期的な森林整備の指針を、今年中に策定したいと考えています」。

続いて、被害現場での作業を請け負う事業者のひとつ、千葉県森林組合南部支所のおふたり、支所長を務める三橋裕さんと事業課長の齋藤正博さんに、「特殊地帯え事業」(森林再生補助事業)の第一号となる現場を案内していただきました。「今は、組合員さんの山を中心に、被害現場を調査し、倒木を伐って搬出し、そこに苗を植えるまでの森林再生事業を、支所の職員と協力会社とで連携して請け負っています」(齋藤さん)。現場では、とくに根返しの(根こそぎ倒れた)木の処理に苦心しているといいます。重なり合った倒木の各所に力がかかっているため、無計画に伐ると巨大な力の反発で人が飛ばされてしまう危険があり、「現場ごとに、伐採・搬出の方法を慎重に練り、重機や人員を算段することが求められます」(齋藤さん)。「現場作業者の安全対策についても、通常の森林整備以上に気をつけなければなりませんので、林業機械で作業できる被害林を慎重に精査し、労働災害のリスクを低くすることに注力しています」(三橋さん)。



佐藤健一さん・耕輔さん

さとうけんいち 65歳・こうすけ 31歳(茨城県常陸太田市)

「山の仕事は油絵に似ています。伐つたら、次にどういいう木を育てるか、絵具を重ねるように山を変化させていく」

林家という言葉をご存じでしょうか。農林水産省の定義では、「林業事業者のなかで保有山林面積が1ヘクタール以上の世帯」とされています。常陸太田市に150ヘクタールの山林を有する佐藤健一さんは、現在では数少ない専門林家。山を管理し、何十万本もの木を生産してきた林家人生についてお聞きしました。

林家の仕事の内容について教えてくださいませんか。

佐藤健一(以下、健一)「山を所有して木を育て、その木を売って生計を立てるといいう仕事です。うちでは、150ヘクタール(編注:東京ドーム約32個分)の山を所有し、主にヒノキとスギを育てています。代々半農半林のような形で続けてきたのだと思いますが、今の規模にまで大きくなったのは、私の父親の時代です。昔は、周囲に林家の仲間がたくさんいたのですが、今では本当に少なくなりましたね」

今は、年間何本くらいの木を植えているのですか。

健一「1ヘクタールにだいたい2500本の木を植えています。新たに植えるのは、年間7000本くらいでしょうか」

樹齢の古いものは何年くらいになりますか。

健一「私はずっと100年の木をつくることを目指してやってきたんです。さきほど撮影した場所にあった切り株が、昨年、樹齢100年で伐つたものです。父親の時代は、うちでは樹齢50〜60年の木が主力だったのですが、当時は80年〜100年の木がすごく高く売れていたんです。それを知って、よし、俺もあと30年頑張ればいい思いができるぞと考えましたね」

2016年にその目標を達成されたんですね。

健一「ええ、それなりの達成感を抱くことができました」



山を管理するための図面。稜線に沿って約2ヘクタールのプロットに分け、植えた木の種類と作業の履歴を記録していく。



切り株の横には、昨年植えられたヒノキの苗の姿が。木を伐るのも苗を植えるのも、一つひとつ手作業で行われる。

健一さんが跡を継がれたのはいつごろですか。

健一「私が大学4年のときに、父が急逝しました。東京での社会人生活を謳歌する間もなく、実家に戻らざるを得なくなりました。しかし、父から林業について具体的な指導を受けたことなどありませんでしたから、最初は途方に暮れました。山で木を育てる仕事というのは、空間的にも、時間的にも、人間の日常のスケールを越えた考え方が求められます。最初はその巨大な何かに呑み込まれてしまうような不安感にさいなまれて、焦りだけが募る日々を送りました」

そこからどのようにして必要な技術を習得していったのですか。

健一「幸いにも、当時は周囲に同業者がたくさんいたので、とにかく真似をしたんです。近所の人から山に肥料をまけば、肥料をまき、藪を払えば、私も真似て藪を払って。そうやっていろいろと体験して覚えていきました」

昔のように太い柱を使う家が少なくなりました。ただ、今は古い木の価格が安くなっています。思ったほど高くは売れなかったですね」

昔のように太い柱を使う家が少なくなつた影響でしょうか。

健一「そうです。市場の動向は変化するものですから。ですから、これからは、150ヘクタールの山の中で、いろいろなパリエーションの木を持つようにシフトすることが必要だと考えています。市場のトレンドが変わると、求められる木も変わる。その流れにできるだけ早く対応できるように、計画していくことが必要だと思います。木は、植えてから少なくとも35年間はお金にならないんですよ。どんなに早くても、商品になるのは樹齢35年からです」

耕輔さんはいつから林業に?

耕輔「今年で4年目です。今は、森林組合の職員として勤務しています。これまでの3年間で、林野庁が提供する「緑の雇用」という制度を利用して、重機の免許などの必要な資格を取得しながら、林業のやり方全般を身に付けてきました。お陰で伐倒のスキルもだいぶ高めることができました。父の山も、父が組合に依頼し、組合員の僕が伐るという形で伐採しています」

跡継ぎが決まった安心感は大いいですね。

健一「それはもう、本当にそうです。不思議なもので、自分ひとりだと、この先どうしているか、次の手を打てなくなるんですよ。先がわからないから、新しい苗を植えることもできないし、かといって、伐れることもできないんです。山の仕事は油絵に似ています。伐つたら、次にどういいう木を育てるか、絵具を重ねるように、山を変化させていく。耕輔が継いでくれることで、山にまた次の絵を描くことができます。これからは、息子が、自分らしい絵を描いていく番だと思っています」



樹齢103年を迎えるヒノキの林。空を目指して真っすぐに立ち並ぶ姿が美しい。

この写真に写る山林はすべて佐藤さんが保有するもの。伐採跡の向こう側に立ち並ぶのは、樹齢30年の木々。まっすぐに同じ高さで生育する木々の美しさは、思わず目を見張るほど。佐藤さん親子の徹底した手入れ作業の賜物だ。



昨年伐採した樹齢100年の杉の切り株。耕輔さんが伐倒した。

カタログハウス
林業班の

日々是 山日和

第4回

資格

我がソロー事業部の業務の両輪がペレットの製造と、その原料となる丸太の確保です。林業班では、森林を手入れすることと出てくる丸太を建築材、合板・集成材用と仕分けし販売、最後に残った曲がり材や林地残材を工場に持ち帰りペレットにしています。まさに林業なのですが、仕事をするためにはこれだけの資格が必要です。

(小社林業班・宮崎忠久)

カタログハウス
ソロー事業部
『日々是山日和』
Facebookにて更新中!



1 刈払機取扱作業者 安全衛生教育

刈払機(草刈機)を使用するための資格です。山作業では草が生い茂る現場が多く、作業をしやすいするためにまず草を刈ります。林業用の刈払機は灌木も伐ることができ、丈夫なものを使います。



2 小型車両系 建設機械(整地用) 特別教育

重さ3トン未満の整地用重機(小型バックホウ、油圧ショベル)の運転をするための資格です。間伐をするときなど森の中で作業道を作設するときには使用します。小型のバックホウを使うことで、山を崩したり、景観を損なわない最低限の幅の道を作っています。重さ3トン以上の重機を運転するには、別に「車両系建設機械運転技能講習」の資格が必要です。



3 伐木等の業務 (直径70cm以上の伐木) 特別教育

チェーンソーで木を伐るための資格です。危険な作業のため、これを受講しなければ木を伐ることはできません。

4 伐木等機械の 運転特別教育

木を伐ったり、伐った木を玉切りする(丸太にする)ときに使う重機(グラブプル、プロセッサ等)を運転するための資格です。人力ではとてもできない仕事を重機は軽々とこなしてくれます。作業がとてもはかどります。

5 小型移動式クレーン 運転技能講習

つり上げ荷重5t未満の小型移動式クレーンを運転するための資格です。クレーン付きのトラックで現場に行き、丸太を積み込みます。



6 玉掛け技能講習

クレーンで丸太を吊るすときに、ワイヤロープをかけた後、外す作業に必要な資格です。重たいものを吊るすので、落下事故などが起きないように技術を学びます。



7 簡易架線集材装置等 の運転特別教育

ウインチで丸太を運搬するための資格です。重機が入れない場所にある丸太にワイヤロープをかけ、ウインチで巻上げて運び出します。

8 荷役運搬機械等に よる、はい作業従事者 安全衛生教育

丸太を土場に積み上げるための安全知識・技術を学びます。グラブプル等の重機で丸太を積み上げる作業に役立つ知識です。

9 高所作業車 運転技能講習

高所作業車を運転するための資格です。はしごでは届かない高さの枝を切るときや、場所が狭くて木を伐り倒せないときに高所作業車を使って、木の先端から細かく切り落としていきます。



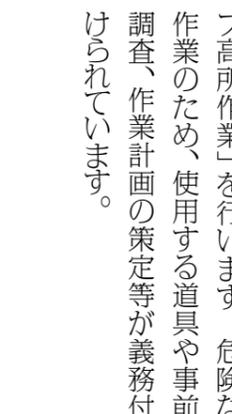
10 走行集材機械の 運転特別教育

走行して木を集材する重機(フォワード等)を運転するための資格です。山の中ではトラックが入れない現場も多く、トラックが入る土場や舗装道路まで丸太を運ぶのに役立ちます。



11 ロープ高所作業 特別教育

高所で作業を行う場合には、墜落の危険を防止するため、高さ2m以上の場所では作業床の設置が必要とされています。しかし、作業床が設置できないところでは例外的にロープで身体を保持する「ロープ高所作業」を行います。危険な作業のため、使用する道具や事前調査、作業計画の策定等が義務付けられています。



健康な森を増やすために

ペレットの地産地消で日本の森を 一緒に守つていきませんか。

「間伐(かんばつ)」とは、間を伐る、つまり建築材に育たないムダ木(細木、曲がり木など)を伐り払うことで、これまで届かなかった太陽の光が木々の根元まで届くようにする発育のための手入れ法。この間伐によって、木は太く真っすぐに成長していきます。

ところが今、その大切な間伐作業が思うように入りに進んでいません。

安い輸入材に押されて国産材が昔のような価格で売れない↓山が収入をつくれなから、コストのかかる間伐ができない↓荒れ放題↓ますます売れる国産材が育たないからです。

この悪循環をこわしてくれるのは消費者しかいません。間伐材がペレットという燃料になり、山主さんたちの収入になれば、間伐作業は活発に行なわれるようになるからです。

ソローが皆さまにお届けするペレットは近隣の森から伐り出した間伐材、林地残材、曲がり材です。



燃料のペレットは、最寄りのペレット工場(全国11カ所)からご自宅に配達します。たとえば、岩手県在住の方には青森県の森の間伐材でつくったペレットを、広島県在住の方には山口県の森の間伐材でつくったペレットをお届けします。



たとえば、関東7県と福島県にお住まいの方へは、 100%関東産の ペレットをお届けします。

ソローのペレットができるまで。



⑤ 円柱形のペレット。

ペレットストーブ「ソロー」の燃料となるペレットは、茨城県石岡市の自社工場生産されています。原料の丸太は、茨城、栃木、千葉の森から運び出されたものです。関東地方の森から生まれたペレットを燃料として使っていただくことで、関東の森はどんどん美しくなっています。

工場敷地内の集積場には、茨城県石岡市をはじめ、笠間市、小美玉市、栃木県益子町、千葉県山武市などから運び込まれたスギ、サワラ、ヒノキなどの間伐材や林地残材(造材した後の切れ端や小径木)が山積みされて、出番を待っています。

①「ソロー」では、丸太を入荷前に放射能測定器で計測し、値が30ベクレル以下であることを確認したもののだけをペレット製造工程へ回しています。

②念のために放射能が残留しやすいとされる樹皮を皮むき機でむいてから、破砕機に送り込みます(皮をむいてあるペレットはむいてないペレットよりも燃焼後の灰の量が少ないのも特長です)。

③破砕機で細かくチップ状にしたあとは、ボイラーの熱風で乾燥させます。④乾燥したチップを粉砕機でおが粉状にしてペレット成型機にギユッと押し込んで圧縮すると、⑤直径0.6センチ、長さ2センチの円柱形のペレットのでき上がりです。

1トンの原木から約600キロのペレットができます。

「デザインが洗練されていて美しく、耐震装置もしっかりしているので安全安心。心から信頼して使っています」

私

は、オカリナ奏者として1985年にデビューし、1986年にNHKの番組「大黄河」の音楽を手掛けたことで、世間に広く知られることとなりました。そのころ、出身地の栃木県を離れて茨城県常陸大宮市の山間に居を移し、33年間、この地に住み続けています。



6
シーズン

宗次郎さん

●茨城県常陸大宮市（本品使用歴2014年12月～）

していただける、理想の空間が実現しています。「ソロ」を設置しているのは、「交流館」の2階です。このスペースでは、作曲をしたり、オカリナ教室やファンの方々との交流会を開催したりしていますが、「ソロ」はデザインが洗練されていて美しく、空間がよりスタイリッシュになったことを嬉しく思っています。

もちろん、暖房器具としての機能が優れていることはいまでもありません。都内よりもだいぶ気温が低いこの常陸大宮市ではとくに重宝しています。私は、仕事の関係で都内とこちらを行ったり来たりすることが多く、都内から自宅ではなくこの「交流館」に直接戻ることも多々あるのですが、戻ってからまずするのは、「ソロ」に火を点けることなんです。いわば、ここに戻ったときのルーティンのようなものです。そのあと、街に食材などを買い出かけ、戻ってくる際には、「ソロ」が室内をふんわりと快適に暖めてくれる。

ストーブの管理に手間がかからないことも、大きな魅力のひとつですね。ここでは室内に煙突を立ち上げる形で設置してもらったので、煤払いだけはこまめにやっていますが、今ではコツも覚えてだいぶ上手にできるようになりました。だいたい2週間に一度くらい、ストーブの前面から専用のブラシを入れて煤を払っています。

燃料であるペレットの扱いやすさも魅力ですが、私も、「ソロ」のペレット燃料は年々質がよくなっている。粒が長く艶やかになり、着火性や燃焼性が上がりました。日々、改良が重ねられていることを実感できるのも、ユーザーにとってはとても嬉しいことです。

「暖かいし、炎のゆらぎが穏やかな気持ちにさせてくれる。気づくと家族が『ソロ』の前に集まっています」



6
シーズン

福田武真さん一家

●茨城県石岡市（本品使用歴2014年12月～）

10年ほど前、自然を慈しむ気持ちで有機農業を始めたかと思いき、脱サラをして、妻と2人で東京都から茨城県石岡市に移り住みました。それから4年ほどしたころでしょうか、当時住んでいた借家

の前に、偶然にも「ソロ茨城」のオフィスとペレット工場ができたんです。最初は何をやる施設なのだろうと興味深く見ていたら、「通販生活」の会社の新事業部で、地元森林を守るために、間伐材を使ってペレットをつ

くる事業だと知り、驚きました。以前から「通販生活」の姿勢には賛同していましたので、思い切って「ソロ」を購入することに決めました。

色は、妻が選びました。インテリアのポイントとなる赤い色が気に入ったようです。

購入した当時は借家暮らしでしたが、今から1年前に、同じ地域に家を新築することになり、新居は迷わず「ソロ」が主役となるような設計にしました。

吹き抜けのある1階リビングの中央に設置した「ソロ」が、真冬でも1台で家全体を十分に暖めてくれます。気づくと3人の子供たちも含めて、家族がいつも「ソロ」の前に集まっています。暖かいし、炎のゆらぎを眺めている

だけで、落ち着いた心地よさを感じられるからだと思います。

設置や管理の手間がかからないところもとても気に入っています。薪ストーブに憧れたこともありましたが、薪割りや管理の手間を考えると、「ソロ」を選んで本当によかったと実感しています。

「ソロ」のペレット工場は地域住民にも公開していただいているので、子供たちが見学に行き、ペレット生産の過程やその意義を理解していることも、親としてうれしい限りです。これからも「ソロ」のスタッフの皆さんとともに、この地の美しい里山の風景を守る活動に、私たち家族も微力ながら携わっていければと思っています。



暖房面積
15~30
畳

カタログハウスさいかい産業共同開発
ペレットストーブ「ソロ SS-5」

初回にかかる費用

ペレットストーブ「ソロ SS-5」

356,000円（税・送料込）

給排気管、かんたんな設置工事含む

ペレット約1か月分(10キロ×20袋)

15,240円（税・送料込）

着火剤（60回分）

990円（税・送料込）

合計372,230円（税込）ペレットと着火材の追加注文は、カタログハウスでお受けします。

次の読者には、本当に申し訳ありませんが、販売できません。

- 全国のマンション、賃貸住宅、集合住宅にお住まいの読者（給排気管を取りつけられないため）
- 離島の読者（提携ペレット工場がなく、地産地消型のペレット販売ができないため）

【資料請求先】

0120-058-059

カタログハウスお客様センター

資料請求番号 2660240

月～金は午前9時～午後7時 / 土曜は午前9時～午後6時
日曜祝日は休業。

インターネット

カタログハウス ソロ

検索

- 資料は受付から1週間以内でお届けします。
- ソロの暖かさを実感できる「体感ルーム」(全国83カ所)もあります(所在地は上記のインターネットからご確認ください)。

茨城・千葉・栃木限定モデル
好評販売中!

ペレットストーブ「ソロ」

269,800円（税・送料込）

給排気管、設置工事費含む

暖房面積
15~30
畳



ブラック